

第 36 回テーマ

## 全て自分で考える力をつける

個人的な話だが、3月を持って会社を退職したという連絡を受けた友人が数人いた。例年と比べると比較にならない程の数である。企業を辞めて、夢に向かって前向きに次のステージへ進むというのなら諸手を上げて喜ぶのだが、今年に限っては事情が異なる。事業縮小又は会社の解散という憂き目に合っている人が多いのだ。

企業の大きさや事業などにより雇用の状況などは異なるが、2番底とまでは言わないものの、実際にニュースなどで見る景況感の改善は中小企業にとってはまだまだ厳しい目に映っているに違いない。消費マインドが改善しても、デフレ環境下ではコストをさらに下げざるを得ず、その一番が人件費という事になる。さらに製造業から景気が上向きであるとしても、素材関連や原材料関連は世界的に高騰を続けている事から、やはり人件費の削減というのは企業の命題にもなっている。

これから超高齢化社会を迎える日本にとって、介護サービスなどが成長分野と言われてるものの、その実態は給与水準も低く、人気も上がってきていないのが現状だ。ここで問題にしたい部分は、その「バランスの悪さ」である。以前にも書いたが優先順位の付け方が問題だ。国もそうだが、企業側も同じロジックを戦略の軸としている部分も多いだろう。このままでは国内の空洞化はさらに進み、さらなる市場開放を進めていく他、手はない。さらにインターネットやインフラは整備されてきているものの、そのような情報伝達がまだまだ不十分な国の政策にも憤りを感じる所だ。

シンガポールの例を見てもわかる通り、今、国も企業にも重要な事は人材育成だ。人を育て、次世代につなげる政策をとらねば、国も企業も崩壊してしまうだろう。もちろん、国の政策だけに期待してはいけない、企業が出来る事、企業経営者が出来る事、管理者が出来る事、一般社員が出来る事、個人個人が出来る事はマチマチだ。ただ、こういった問題をどうやって解決していくか？...という危機意識の共有は大変重要だと思う。

改めてリーダーが必要だ。国にも企業にも。そして、個々人ももっと考え、自らどのように解決していくか？という強さを持つしかないだろう。